

第2回 鶴川西地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事録

開催日時	2023年8月28日（月） 9：30～10：45	
開催場所	町田市立鶴川第四小学校 家庭科室（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	岩永委員、沼尻委員、柄澤委員、竹村委員、功刀委員、田中委員、大隅委員、仲村委員、浅沼委員、◎鰐坂委員、○悴田委員 （◎：会長、○：副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター
傍聴者	1名	

議事内容（敬称略）

1 第1回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1説明）

2 報告事項

（1）新たな学校づくり基本計画の進捗状況について

新たな学校推進課 （資料2-1説明）

（2）町田市学校統合等に伴う地区別学区別変更一覧のホームページ掲載について

（3）町田市学校統合等に伴う在校生の通学先に対する配慮に係る基本方針について

（4）町田市学校統合等に伴う通学区域再編時期の変更について

（5）2023年度児童・生徒・学級数の推計について（鶴川東地区・鶴川西地区）

学務課 （資料2-2～資料2-5説明）

委員 資料2-4の通学区域再編時期の変更について、2026年に鶴四小の児童が鶴三小と統合し2027年3月に卒業する。その時期に合わせて中学校の通学区域の再編をすると捉えてよいか。

学務課 中学校の学区再編は、2036年度の鶴二中と真光寺中の統合時に中学校区の学区再編を予定していた。しかし、2026年度の鶴四小と鶴三小の統合の翌年に、鶴川第四小学区である大蔵町と小野路町を真光寺中学区から鶴中学区に変更する。

委員 真光寺中と鶴二中の学区の境界線がどこになるか。境界線が今のままだと、鶴川二丁目の児童は鶴四小には来ない。みんな統合校の鶴川東小に行くだろう。多くの方は鶴二中へ行こうと思っている。

この地区で一番の問題は、真光寺中と鶴二中があまりに違っていること。何が一番違うかという、真光寺中に進学すると友達が減る。鶴四小からしか進学しないので生徒が2割程度減る。中学校に行き、友達が減るといのは、町田市全部で42校の中で鶴四小と大戸小だけ。だから、鶴川三丁目に住んでいる人たちは、小学校に上がるときから鶴三小へ入学してしまう。鶴三小卒業だと、無条件で鶴二中へ進学できるから。要するに、50人、60人の限られたメンバーだけで9年間を過ごすには

耐えられないという人たちがたくさんいる。だから、ここの鶴三小と鶴四小の統合でも、中学校に進学したらどっちの学校へ行けるのかというようなことがすごく重要な問題なので、いろいろと検討してほしい。

- 学務課 承知した。
- 委員 児童数の推計について、通学区域緩和制度の割合まで考えて推計された数字なのか。
- 学務課 緩和を勘案しているのは推計の1年目のみ。
- 委員 進学先をどうしようかと鶴四小に通学している保護者から聞いたことがあるが、逆に真光寺中のほうが鶴二中に比べて子どもの数が少ないので、中学から高校へ受験するとき、推薦枠を鶴二中だとももらえないから、中には鶴三小に通っているが、逆に真光寺中に進学しようと考えている保護者もいると聞く。

(6) 鶴川西地区統合新設小学校の新校舎建設中の仮校舎（鶴川第三小学校）について
施設課 (資料2-6説明)

(7) 「荷物らくらく登校」の試行について
新たな学校推進課 (資料2-7説明)

- 委員 新しい校舎ができたとき、今の児童たちのロッカーの大きさでは足りない。2倍ぐらいにしないと、ランドセルを入れて何か他の物を入れるといっぱいになる。学校へ置いていっていいと言うならロッカーを大きくしないといけない。
- それから、教室の大きさもあと一回りぐらいずつ大きくしたほうがいい。ぜひ、今でなくても新しい校舎をつくる際の設計のときに反映してほしい。
- 施設課 新しい学校のロッカーについては、荷物が余裕を持って置けるようにしようということ考えている。
- 会長 毎日、クロームブックを持ち帰って宿題をすることを推進しているにも関わらず、なぜ持ち帰らないようにしたのか。
- 新たな学校推進課 荷物の軽減で一番の問題となっているのは荷物が重いことや荷物の数が多いことである。重さの要因としては、ランドセル、クロームブック、教科書などが考えられた。それらを持ち帰らずに効率的な学習ができるかという視点での試行実験になっている。まず2週間試行し、課題などを見つけながら対策を考えたい。
- 委員 鶴中は教科教室型のため教室にロッカーはない。新しい校舎ができたとき、各教室の中にロッカーを置く場合と、廊下にロッカー全部を置くスペースをつくる場合などがあるが、小学校の場合は各教室にあったほうがいいと思う。
- 新たな学校推進課 荷物らくらく登校の試行に際して、クロームブック自体がとても重いという意見をお持ちの保護者が多かった。そのことから実験し、まずは保護者や子どもたちにとってクロームブックの持ち帰りを無くしたことでどう感じるのか、また先生方にとってこういった宿題の課し方がいいのか等、指導課と話し合いながら決めている。実験の結果を受けて今後どうしていくかを考える。

今回の実験の結果で、らくらく登校をするには場所や棚、鍵をかけられるロッカーが必要など、内容に応じて一つ一つ対応していこうと考えている。

これは、新たな学校づくりの取組みとして行うが、既存の建て替えをしない学校でも同じような取組みができたらと考えている。まず、本町田地区で実験した後、地区や時期を変え、その結果で対応策を検討したい。

(8) その他報告事項について

新たな学校推進課 (資料2-8説明)

委員 放課後児童の過ごし方の先進的な取組みということで、世田谷区の学童保育クラブの例があったが、世田谷区は多いところで200名も利用者がいる。少ないところと随分違う。統合したときの学童の児童数で、その規模に合った学校を選択してほしい。

新たな学校推進課 検討したい。

3 検討事項

(1) 新たな学校への歴史の継承について

新たな学校推進課 (資料3-1説明)

[ワークショップ]

委員 歴史の残し方だが、鶴二小が昭和39年設立なので、昭和39年より前はどうかだったのかということは何も残らない。

それから中学校だが、昭和22年に鶴中が鶴川市民センターの場所にできたとき、現在の子どもセンター「つるっこ」の鶴川小学校の校舎を借りてスタートして、翌年に鶴川市民センターのところへ引っ越した。現在の鶴川市民センターの場所はどうしてできたかということ、ある方が「うちの山を鶴川村に寄附する」と言って、「そこに中学校をつくってくれ」ということで、鶴中ができた。そういう歴史があるので、もし残せるなら、残すものの中に学校ができた歴史も入れられると嬉しい。

あと、鶴一小の開校が明治41年だというので、町一小や南一小などの町田地区、南地区、それから相原小や小山小は、開校が明治6年や明治7年である。では、鶴川小学校は、明治10年とか、20年とかに小学校がなかったのかということとちゃんとあった。小野路や野津田にあった。それが明治41年に統合した。義務教育が4年から6年になったこと、村野常右衛門がリードして6年まで義務になり、その上に2年間の高等小学校を各村でつくれというので、それに対して鶴川では分かれていては駄目と、一つにまとまってしっかりした教育をしていかなければということで、明治41年に5つの小学校に分かれてあった学校が一つになったという歴史があるらしい。

今の小学校は英語を取り入れたり、プログラミング学習をしていったりと、100

年以上前の人たちが、学校が小さく分かれていたら対応できないとなり、それなりの大きさの学校に統合していったことは、大いに参考になると思う。そういうような歴史も残せたらいいと思う。

先ほど、学童を見学するお話しで、6年前に世田谷の花見堂小学校が2つに分かれて代沢小学校と山崎小学校に吸収のような形でなくなった。現在、花見堂小学校の跡地は、さくら花見堂というものになっていて、花見堂地区会館と代田南児童館と0歳児から6歳児までの障害児が通う通所施設などが複合的に入っていて、その中の一つに花見堂小学校内にメモリアルコーナーが設けられている。

もし可能であれば、鶴三小のどこか、建物全部とは言わないけれども、空いたスペースに鶴二小と鶴三小と鶴四小のメモリアルコーナーをつくれればいいと思う。

委員

それは真光寺中学校につくればいいと思う。理由は2つある。1つは、今言われた歴史的な学校の話、実はこの間、鶴四小の図書館に行き、何年史やいろいろな記念誌を眺めていたら、その当時の雰囲気や歴史がよく分かった。残念ながら、印刷ではない活版のものもあるが、それをデジタル化して残す。そうすれば、結構な歴史が残ると感じた。

それからもう一つ、デジタル保存は単に写真だけを残すと背景が何も分からない。必ずその背景にあるものを、どなたかに書いてもらったり、何か記録に残したりしてほしい。そうすることで初めてその写真が生きてくると思っている。

委員

デジタル保存に関して、子どもたちには意見を聞く予定はあるか。

新たな学校推進課

デジタル保存について、現段階で子どもたちに意見を聞く予定はない。

委員

子どもたちにもぜひ意見を聞いて欲しい。あと、可能なら大人たちで出した意見、今出ている意見を子どもたちにどう思うかというのを聞くのもいいと思う。結局、過去のことは、今の子どもたちにはあまり心の中には刺さらないと正直思う。だが、卒業制作物や校歌や校舎に関しては自分たちに直結している。「大人たちはこう考えている。でも、あなたたちはどう思う」という意見を聞くのは重要であると思う。

新たな学校推進課

今後、児童に意見を聞いていくかというのは、持ち帰らせてもらう。去年、統合を進めている5地区で、児童に「学校の特徴」をアンケート形式で聞いている。歴史の継承にも関わるようなジャンルの設問をし、鶴四小の児童から出た意見の特徴として、例えば、鶴の台があるとか、自然が豊かとか、そういったご意見などは聞いている。歴史の継承については具体的にまだ聞いていないので、今の意見を踏まえ、今後、参考にさせてもらう。

委員

2点ほどある。まず1点目。鶴川の歴史は、何らかの形で残していかないと分からないと思う。鶴川に住んでまだ3年ぐらしかたっていないが、「つるっこ」が実は中学校だったとか、実際に自分たちが住んでいる土地の歴史は知っておいて損はないと思う。

あともう一つ。子どもたちの意見はとても重要だと思っている。実際にこの校舎がなくなっているいろんな思いを抱えるのは子どもたちだと思うが、子どもたちがどういった形で過ごしていたのか、そういう思い出の話とかを残していければいいと思

う。

ちょっと変なことを言うが、鶴四小には未だに「トイレの花子さん」が出るといういろんな噂があるが、そういったことも残せればと思っている。新校舎になっても鶴四小にいた「トイレの花子さん」がまだ住んでいるとか、迷惑に感じる子どももいると思うが、そういったことを面白おかしくできればと思っている。何か子どもたちがわくわくするような、もしくはちょっと怖いと思うこととか、そういったアプローチも必要と思っている。

委員

全ての歴史をデータで残すのはいいが、現物として、残しておいてほしいものがある。例えば、鶴三小の校歌に寄せて書いてもらった作詞家、作曲家の二人から生の手紙があり、これは写真で残すだけではなく、現物は捨ててはいけないものだと思う。ましてや鶴三小は両方に分かれてしまうので、どちらかの学校に持っていくことができない。学校の歴史をデータ化したものを保存しておけるような、どうしてもこれは捨ててはいけない、保存しておく物を置けるミニ博物館のようなものをつくってほしい。

委員

デジタル保存について、例えば、建物の外観はドローンで飛ばして撮影したらいいという話もあるが、その中に必ず、今の子どもたちが使っている状態の記録を残してほしいと思う。誰もいない校舎ではなく、子どもたちが動き回っているところの写真なり、ビデオを残してほしい。

委員

写真や動画に文章をつけておくことは大事だと思う。結局、文章をつけておかないと伝わらない。公共を組織としても全ての歴史を維持することは非常に難しい。現物に何を残して何をデジタル化しておくかというところが、これからの作業になるのではないか。何を残すかというのは相当難しい。残すのは簡単だが、維持していくこと、例えば、30年、50年残したときにそれがまた次にどういう形で残していったらいいか等、そのときに歴史的なものとして残すべきものと処分するものという検証が一番難しい。何でもかんでも残すというのはちょっとできないのではないか。その辺は単に希望だけではなくてランニングコストのことも考えて残すことは考慮したほうが良い。

会長

(閉会のあいさつ)